

トピック1 洛西浄化センター下水汚泥固形燃料化事業

洛西浄化センターでは年間約24,000tの脱水汚泥が発生しますが、そのうちセメント原料などにリサイクルする汚泥の割合は44%にとどまっています。また、脱水汚泥は、焼却・運搬・埋立の工程を経て処分していますが、現在稼働している焼却炉の老朽化が進んでいます。

次期施設については、環境性、経済性、技術的観点からの検討が必要であるため、学識経験者による検討委員会を設置し、様々な助言を受けた上で選定することとしました。検討委員会では、汚泥処理技術は、技術革新が著しく、民間の独自技術が多い分野であることから、民間事業者からの提案を公募し、検討の一助としました。その結果、平成24年3月27日に以下のとおり提言が提出されました。



……………検討委員会の提言……………

処理方式：環境性、経済性などの観点で優位であり、入札において高い競争性の発揮が期待できることから、固形燃料化が最適

事業方式：コスト削減効果が高いDBO方式（設計・建設・管理運営までを一括した事業方式）が最適

検討委員会の提言を受け、検討を進めた結果、DBO方式により、処理能力を50t/日とする固形燃料化施設を導入することとし、平成25年度に事業着手しました。

なお、設計・建設の期間は約3年とし、平成29年度の供用開始を目指します。製造する固形燃料化物は、石炭等の代替燃料として受注者に売却し、固形燃料化物の売買も含めた維持管理運営の期間は、平成29年度から20年間を予定しています。

下水汚泥固形燃料化事業については、京都府ホームページ (<http://www.pref.kyoto.jp/gesuido/nenryouka.html>) を御覧ください。

製造される固形燃料化物(例)

